

# 「夫婦二人三脚でおいしいトマトをつくりたい」

土肥 寛 (53歳)・麗 (47歳) 新規参入  
(久万高原町)



## 1 就農の動機・理由

兵庫県で仕事をしていたが、妻の親戚に会いに愛媛を度々訪れるうちに「農業っていいな」と思うようになった。

農業には以前から関心があり、県内各地を見て回って選んだのは、研修制度等が整っている久万高原町だった。話を聞いた先輩農家の栽培したトマトを食べ、そのおいしさに驚き、自分も作りたと思った。

平成 30 年、兵庫県から移住し、久万農業公園研修センターの研修生となり、妻も一緒に 1 年間夏秋トマトの養液土耕栽培の技術等を学んだ。

- 軽トラック 1 台
- 養液土耕システム 1 式 (2,000 m<sup>2</sup>分)
- 小型運搬車 1 台
- 動力噴霧器 1 台
- 自走式防除機 1 台
- 畝立て機 1 台

## 2 農業経営の概要

### ○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和 2 年)	現在の経営 (令和 3 年)	将来の経営 (令和 6 年)
労働力	男 1 人(本人) 女 1 人(妻)	男 1 人(本人) 女 1 人(妻)	男 1 人(本人) 女 1 人(妻)
経営耕地	水田 56 a	水田 56 a	水田 76 a
経営内容	夏秋トマト 20a (雨除け施設)	夏秋トマト 20 a (雨除け施設)	夏秋トマト 20 a (雨除け施設) 水稲 20 a

### ○農業用施設

- ビニールハウス 6 棟 2,000 m<sup>2</sup>
- 倉庫(パ イ プ ハウス) 1 棟

### ○主要農業機械

## 3 あしあと

### (1) 就農までの主な経歴

- 出身地 兵庫県川西市
- 職歴 証券会社、警備会社  
公務員 など

### 就農研修歴

久万農業公園

(H31. 4. 1~R2. 3. 31)

就農年月 令和 2 年 4 月

### (2) 就農時の思い

農業は自然相手でリスクも大きいですが、自己の判断や工夫でトマトの生産性を上げることができ、健康的で地域や人に根差した生活が送れると感じていた。

## 4 就農時の取り組み

### (1) 技術の習得

久万農業公園での研修で雨除けハウスを任せられ、トマトの接ぎ木から定植・管理・収穫に関する知識や技術を身につけた。妻も私の研修中から作業に従事し、栽培管理等と一緒に学んだ。困った事があれば農業公園や農業指導班の職員が対応してくれた。

その他、青年農業者の組織に加入していたので会合がある時に先輩農家か

ら体験談や技術を聞くことができた。

## (2) 資金の準備

久万高原農業公社から新設のビニールハウス、養液土耕システム一式等を賃借（リース）した（同公社の農業機械・施設整備補助事業も活用）。

年齢のため農業次世代人材投資事業を受給できなかったが、町の補助金で就農初年度の生活資金の支援を受けた。

## (3) 農地・住宅の確保

住宅は研修開始までに、町営住宅を借りることができた。

農地については、相談していた先輩農家や久万高原農業公社と共に情報収集し、まとまった農地を借りることができた。

## (4) その他苦労したこと

研修期間中にハウスを自分で建設しなければならず、日々の作業との両立に苦労した。また、就農時、研修中に比べ栽培面積が増えたことによりトマト管理作業が遅れるなどした。栽培管理については近くに先輩農家がおおり、いつでも相談にのってくれた。

## 5 農業経営の特徴

研修で得た知識や先輩農家からのアドバイスを参考に、基本的な栽培管理を適期に行うことに心掛けている。

また、JA松山市のトマト部会に加入し、エコえひめ（特別栽培農産物等認証制度）に取り組んでいる。

妻は、県の一次産業女子ネットワークにも参加し、交流を深めている。

## 6 これからの夢

久万高原のトマトはまだ知名度が低いので、たくさんの人に知ってもらい食べ

てもらいたい。また、友人にバイオリニストや歌手がいるのでみんなを呼んで農村コンサートをしたい。

## 7 成功したキーポイント

地域の祭りや行事に積極的に参加し、地元の方々との交流を大切にしている。

夫婦で研修を受けることができたので、栽培管理の段取りがわかり効率的に作業ができた。就農1年目なので、成功したと思っていないが、来年は今より栽培管理などを頑張りたい。

## 8 就農を目指す方へのアドバイス

周りの農家さんとのコミュニケーションを大切にしたい。わからない事は素直に先輩農家に聞くことが大切です。

### ○ 指導機関からのひとこと

新規就農者として数多くの苦労があったと思いますが、奥様と力を合わせて就農初年度を乗り切られました。地域の担い手として活躍することを期待しています。

### 執筆機関

中予地方局産業振興課地域農業育成室  
久万高原農業指導班

電話番号 0892-21-0314



育苗管理について学ぶ土肥さん(右)